

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア. 定員充足の見込み

新潟大学医学部医学科の入学定員については、平成20年度に新医師確保総合対策に基づき臨時定員増が認められて以降、「地域枠」に係る増員が現在まで継続的に認められている。

最近では、令和元年度を期限として認められた22名の増員が令和3年度まで継続して認められ、さらに令和3年度限りの5名増員が認められたことから、令和3年度の入学定員を127名とした（一般入試80名、推薦入試「一般枠：20名、地域枠27名」）。また、令和4年度は、地域枠として33名の臨時定員増が認められたことから、入学定員を133名（一般入試80名、推薦入試「一般枠：20名、地域枠33名」）とした。

令和5年度は、地域枠として40名までの臨時定員増が認められたことから、入学定員を140名（一般入試80名、推薦入試「一般枠：20名、地域枠40名」）に変更するものである。

本増員計画は、地域社会の要請に応え、地域における医師の確保ならびに地域医療を担う医師の養成を図るものであり、入学者の選抜は、新潟大学医学部医学科学校推薦型選抜「地域枠」（出願要件は、新潟県を含む全国の高等学校出身者）によるものとし、「一般枠」と「地域枠」のそれぞれに募集人員を設け、地域枠希望者を区別して選抜を行う。

医学部医学科における過去5年間の平均志願倍率からも、再度の入学定員増を行うことは妥当であり、定員充足の見込みは高いと判断される。

イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

医学部医学科における過去5年間の入学志願状況等は下表のとおりである。

入学年度	全体								学校推薦型選抜(推薦入試)【地域枠のみ抜粋】								
	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	辞退者数	入学者数	歩留率	定員超過率		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	辞退者数	入学者数	歩留率	定員超過率
平成30年度	122	534	472	129	7	122	94.6%	1.0	地域枠A	5	92	92	5	0	5	100%	1.0
									地域枠B	12	89	89	12	0	12	100%	1.0
令和元年度	122	641	423	124	2	122	98.4%	1.0	地域枠A	5	89	89	5	0	5	100%	1.0
									地域枠B	12	88	88	12	0	12	100%	1.0
令和2年度	122	490	419	123	1	122	99.2%	1.0	地域枠	22	85	85	22	0	22	100%	1.0
令和3年度	127	434	382	131	4	127	96.9%	1.0	地域枠	27	89	89	27	0	27	100%	1.0
令和4年度	133	511	429	137	4	133	97.1%	1.0	地域枠	33	125	125	33	0	33	100%	1.0
(過去5年平均)	125	522	425	129	4	125	96.9%	1.0	地域枠A	5	91	91	5	0	5	100%	1.0
									地域枠B	12	89	89	12	0	12	100%	1.0
									地域枠	22	85	85	22	0	22	100%	1.0
									地域枠	27	89	89	27	0	27	100%	1.0
									地域枠	33	125	125	33	0	33	100%	1.0

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

令和4年度新潟大学医学部医学科オープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、インターネットを活用したWeb型オープンキャンパスを実施すると共に、新潟県主催「地域医療を担う医師を目指す医学部志望者向け大学入試等説明会」、また、新

潟県内の高校（公立，私立）に働きかけ，医学科への進学を真剣に考える学生に特化した「新潟大学医学部医学科体験講座」において，地域枠への進学も含めた医学科への進学を促し入学者の確保に努めている。

（２）人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

新潟大学は，精選された教育課程を通じて，豊かな教養と高い専門知識を修得して時代の課題に的確に対応し，広範に活躍する人材を育成することを教育目標に掲げている。これを踏まえ，医学部医学科では「医学を通して人類の幸福に貢献する」という教育理念のもと6つの教育目標を掲げている。

（教育目標）

1. 豊かな人間性と高い倫理性を備え，全人的医療に貢献できる人材の育成
2. 高度の専門性を持つ医療チームの一員として貢献できる人材の育成
3. 広い視野と高い向学心を有する医学研究者・教育者となり得る人材の育成
4. 保健，医療，福祉，厚生行政に貢献できる人材の育成
5. 地域の医療に貢献するとともに，国際的に活躍できる人材の育成
6. 探求心，研究心，自ら学ぶ態度を生涯持ちつづける人材の育成

② 上記①が社会的，地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

近年の急速に進行する少子高齢化などに伴い，医療分野におけるニーズは日々，高度化・多様化している。新潟県は，県土が広大なうえ過疎や豪雪等の地理的特性を有することに加え，医師の都市部への集中に伴う地域的な偏在もあり，医師不足が深刻な問題となっている。

新潟県の三次医療圏別医師偏在指標は172.7（全国239.8）と全国最下位であり，また，将来時点（2036年時点）において，新潟県は1,500人以上の医師が不足し，医師養成数は年間100人以上が不足するとされている。

新潟大学医学部医学科は，掲げる教育目標に沿い，地域の医師不足に係る切実な要請に応え，地域における医師の確保ならびに地域医療を担う医師の養成を推進し，深刻化著しい医師不足の解消に貢献するものである。